



シンポジウム

物理・生理・心理 三学を交差する音楽論

—19世紀から20世紀初頭までの科学史をめぐって

科学史と芸術との関わりをテーマとする本研究会プロジェクトにおいて、今回は音楽を対象とし、19世紀から20世紀初頭における生理学、ドイツのみならずフランス、ベルギーの音楽学史的な読み解いていく。

音楽におけるリズム論、和声論と生理学の関係、血液循環とリズムの関係、生理・心理学の知見、数学から生理学へ、楽音演奏の生理学的解明等々、フェッティス、ヘファールト、モズニ、デュルット、オイラー、ヘルムホルツ等々の名がキーワードとなる。

パネリスト

大迫 知佳子 (日本学術振興会海外特別研究員
[ブリュッセル自由大学])

ヘルマン・ゴツェフスキ (東京大学)

長木 誠司 (東京大学)

山上 揚平 (東京芸術大学・跡見学園女子大学)

2014年12月6日(土)

午後1時～

会場：東京大学 駒場キャンパス
18号館4階
コラボレーションルーム1

問合せ先

東京大学大学院総合文化研究科 ゴツェフスキ研究室
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

E-mail: gottschewski@fusehime.u-tokyo.ac.jp

URL: <http://hllc.u-tokyo.ac.jp/~wawen/>

主催

日本学術振興会研究費助成事業・基礎研究(助)
「科学の知と文学・芸術の想像力——ドイツ語圏
世紀初頭期の文化についての総合的研究」

(研究代表者：岡田信郎)